

平成26年度第2回 富士見市こども家庭福祉審議会会議録要旨

<日時>平成26年6月25日(水)午後2時～4時30分

<開催場所>市役所 第2委員会室

<出欠状況>

関	矢島	石川順	増渕	林	加光	秋元
○	○	欠席	欠席	○	○	○
石川泉	島田	河本	松村	中村	吉原	細野
○	○	○	欠席	欠席	欠席	欠席
菅井	小栗					
○	○					

<事務局>

子ども未来部長 子育て支援課長 保育課長 子育て支援課副課長
保育課副課長 保育課主事 みずほ学園長

<傍聴人>

3名

1 開 会 子育て支援課長

2 議 題

(1) 子ども・子育て支援事業計画骨子案(第1・2章)について

(2) 子ども・子育て支援事業計画における量の見込みについて

(3) 「富士見市次世代育成支援行動計画」

平成25年度進捗状況の評価について

(4) その他

議事

(1) 子ども・子育て支援事業計画骨子案(第1・2章)について

事務局より説明

【会 長】P1から質問があればお願いします。

【委 員】P1中央下辺りに、「特に子育て家庭の転入が多くありました。」と書かれてありますが、数字の根拠が分かりません。

【事務局】全体で見ると、平均化されてしまいますが、個別にみると、水子地域やつるせ駅西口等の開発地域は、実際に転入している方達を見ると、やはり子育て世帯が多いです。特に0～2歳が増えており、一番小さい年齢が増える事によって、その後の推計も押し上げていく事にもなります。しかし、数値で転入が何件というのは、はっきり申し上げられ

ないので、この部分については考えます。

【委員】P2の第3節、計画の法定的根拠については子ども・子育て支援法の条文で堅いけれども、これは法律なので変更はできないのですね。

【事務局】もう少し柔らかい表現を工夫したいと思います。

【委員】P3の年少人口割合ですが、ポイントで表すにあたって、「約0.5ポイント程度、全国、埼玉県よりも高い値で推移しており」とありますが、この0.5ポイントというのが、高いか低いかは、読む人にとって違うのではないですか。

【事務局】全国的には少子化傾向が更に進んでおり、国や他市の状況を見ると下降しています。そういう中で、富士見市は横ばいという事は少し良い状況にあるのではないかと思います。市として色々な施策の展開をすることによって維持をしているというのは、非常に大きな意味があるのではないかと捉えています。

【委員】読む人の立場に立った時に、富士見市というのは良い方向で動いているんだと理解できるような表現にした方がいいのかと思います。

【事務局】「全国的には年少人口の割合は高い状況となっています。」の表現が、意味が伝わりにくいので、少し手を加えたいと思います。

【委員】全国・埼玉県と比較するという事は、実は読者にとっては非常に分かり易い。0.5ポイントが高いというのは非常に抽象的な数字けれども、0.5ポイントの意味付けを加えることで分かってもらえるのではないですか。

【事務局】平成26年の国・県の新しいデータを入れ込んだものと合わせて、文章の方もそれに合ったものに変えさせていただきたいと思います。

【委員】各ページに棒グラフがいくつかあるのですが、色が濃い、空白、薄いになってますが、一瞬見た時に真ん中が無いと感じてしまうので、数字は見えにくいかもしれないですが、斜線でも入れていただけると3つ並んでいる棒グラフと言う認識が出てくると思います。

【事務局】見せ方の工夫ということですね。

【委員】カラーになるのですか。

【事務局】いいえ、白黒です。これはうちの方のコピー機なので良くないですが、仕上がりはもっと光沢のある紙になるので、もっと見やすくなると思います。

【委員】では尚更、薄い斜線か何かつけてもらった方がいいです。

【委員】「合計特殊出生率」という表現が、一般から見た時に何なのか、解らないかもしれないので、説明書きか何か入れていただくといいかと思えます。

【事務局】 全体的に用語解説を入れたいと思います。

【委員】 P 1 3 の 2 行目に、『高学年になると「習い事」の割合が高くなっており、一方「放課後児童クラブ」の割合は半減しています。』と書いてありますが、対象児童が、高学年になると入りたくても入れないので、ここの表現はどうかと思いました。

【事務局】 今の実態は 4 年生までですが、ニーズ調査の聞き方とすると低学年・高学年と分けてあくまで希望を聞いた結果の数字です。

これから先、5・6年生になっても放課後児童クラブで過ごしたいか過ごしたくないかということなので、入れたとすればどうしますかという聞き方になっています。児童福祉法が改正になり、今は法律上小学校 3 年生までですが、27 年度から 6 年生まで放課後児童クラブが利用可能になるからです。

【委員】 その設問事項を補足して入れておくと、少し理解しやすいかと思います。

【委員】 P 1 4 家族の状況の未婚率の上昇についてはどのようにお考えですか？

【事務局】 未婚率が高くなればなるほど、結婚する時期も遅れるので、晩婚・晩産化となり、1 人当たりの出産数の伸びない理由の一つであることが窺える資料になるかと思います。

【委員】 P 1 8 の上のグラフについて、父親の就労が 9 割というのは一般的でなんとなく理解できますが、上の母親の就労状況の小さなグラフは、男女共同参画の考えにおいては、ポイントとなるグラフなので、パーセンテージの区切りをもう少し分かりやすくしてほしいです。

【事務局】 ポイントが何かと言う視点も含めて考えます。

【委員】 新制度に向けて、富士見市がどういう姿勢で保育を行うのかが見えません。児童福祉法の第 2 4 条 1 項があるのですから、その所をしっかりと捉えていかないと、子どもが商業化され、競争社会の中で保育されていく様な状況は良くないと思うのです。子どもは市町村が公の場で責任を持つという事がすごく大事な事ではないかと思うので、できればその辺をこの計画の中に載せていただけるといい。他市の話ですが、公立保育園を全部なくしていくという動きが出ており、富士見市はそうならない様に、守っていつてもらえたらいいなと思います。

【事務局】 今ご意見いただき、入れるとすれば、この次の「第 3 章 計画の基本理念及び施策の展開」になるかと思います。ここの所は基本理念の中で方向性がきちっと決まり、施策の展開が行われていくという事になるかと思っています。市としての方針、基本的な部分の表現を明確にす

るという事であろうかと思しますので、その中で一緒に検討させていただきます。

(2) 子ども・子育て支援事業計画における量の見込みについて

事務局より説明

【委員】一番最初の人口の推移で、0～11歳の数字だけを単純に見ていると、1年間で10人前後の推移があると予測されているという事ですか。

【事務局】そうです。平均すると年間10人ぐらいになります。ただ、増減というのは年度ごとにも、年齢ごとにも出てくるので、合計としては結果的に年間10人と言う事になってきます。他市は減少傾向の数字を出していると思うのですが、富士見市の場合、全体からすれば大きい数字ではないですが、ここ数年の上向き傾向が若干反映されていて、横ばいから若干上にはなっています。

【会長】見込み量の数の出し方についての説明がありました。今の説明について、何か質問等ありますか。「特になし。」

(3) 『富士見市次世代育成支援行動計画（後期行動計画）』

平成25年度進捗状況の評価について

事務局より説明

【会長】この評価については皆さん毎年やってきているので、大変でしょうが、次回までに記入して評価を持ってきてください。

5 開 会 副会長